

2023	年度								
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月			
理科	6	啓林		8	23	9	4	5	

大単元(題材名)	1. ものが燃えるしくみ		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 物質・エネルギー		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 物が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることがわかる。
	○ 物が燃えたときの空気の変化や、物が燃えることについて、わかりやすくまとめることができる。
	○ 物の燃焼の前後の空気を比べる実験を適切に行い、その結果を記録することができる。
思・判・表	○ 物が燃えたときの空気の変化について、根拠のある予想や仮説を立てることができる。
	○ 物が燃えたときの空気の変化について、より妥当な考えをつくりだし、表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 燃焼の仕組みについて粘り強く追究する活動を通して、物が燃えたときの空気の変化を知り、燃焼の仕組みをまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 瓶の中で物が燃え続けるには、空気が入れ替わる必要があることを理解している。	A(1)ア(ア)
	○ 空気にはおもに、窒素、酸素、二酸化炭素が含まれていることを理解している。	A(1)ア(ア)
	○ 酸素には物を燃やすはたらきがあることを理解している。	A(1)ア(ア)
	○ 気体検知管や石灰水を用いて、物の燃焼の前後の空気を比べる実験を適切に行っている。	A(1)ア(ア)
	○ 物が燃えると、空気中の酸素の一部が使われて、二酸化炭素ができることを理解している。	A(1)ア(ア)
	○ 物の燃焼の前後の空気の組成の比較実験の結果を、正確に記録している。	A(1)ア(ア)
思・判・表	○ 缶の上だけでなく、下にも穴をあけた方がよく燃えるのは、空気とどのような関係があるのか予想を立てている。	A(1)イ
	○ 空気の出入りがある方が燃えたことから、空気の出入りと物の燃え方との関係について考察している。	A(1)イ
	○ 物が燃えた後、空気中の酸素が減って二酸化炭素が増えていたことから、燃焼の仕組みについて多面的に考察している。	A(1)イ
	○ 気体検知管や石灰水を使った実験結果を総合的にとらえて考察し、物が燃えると、空気中の酸素の一部が使われて、二酸化炭素ができることを導き出している。	A(1)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ 燃焼の仕組みについて、根拠のある予想を立てて実験し、実験内容と結果を関係づけて自分の考えをまとめている。	
	○ 物が燃えるということに興味・関心をもち、物が燃える前後の空気の変化を進んで調べようとしている。	
	○ 燃焼の実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を図や言葉を使って人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 燃焼の仕組みの学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
4 年	空気と水の性質
4 年	金属、水、空気と温度(温まり方の違い)

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
○導入	1	○ 物がよく燃えるためのくふうについて考える。	質的・実体的/関係付け
		・ 教科書P.8, 9の写真を見て、薪がよく燃えるためのくふうについて考え、話し合う。	質的・実体的/関係付け
1.ものの燃え方と空気の動き	2	○ 物の燃え方と空気の動きについて調べる。	質的・実体的/比較/関係付け/多面的に考える
		・ 缶の上だけに穴をあけたものと上下に穴をあけたもので割りばしを燃やし、燃え方の違いを調べる。	質的・実体的/比較/関係付け/多面的に考える
		・ 缶の下にも穴をあけたものの方がよく燃えるのは、空気とどのような関係があるのか予想する。	質的・実体的/比較/関係付け/多面的に考える

		・ 隙間と空気の動きに着目し、瓶の中のろうそくがよく燃える空気の動き方を調べる。	質的・実体的/比較/関係付け/多面的に考える
		・ ろうそくの燃え方と線香の煙の動きを図に記録する。	質的・実体的/比較/関係付け/多面的に考える
		・ 空気の出入りと物の燃え方に関係があるのか、実験の結果から考え、話し合う。	質的・実体的/比較/関係付け/多面的に考える
		・ 空気の入れ替わりがあることで物がよく燃え続けることを理解する。	質的・実体的/比較/関係付け/多面的に考える
		・ 空気は、窒素、酸素、二酸化炭素などの気体からできていることと、それらの空気中の体積の割合を理解する。	質的・実体的/比較/関係付け/多面的に考える
2.燃やすはたらきのある気体	2	○ 物を燃やすはたらきがあるのは、窒素、酸素、二酸化炭素のうちの気体が調べる。	質的・実体的/比較
		・ 窒素、酸素、二酸化炭素の中でろうそくが燃えるかどうかを調べ、その結果を記録する。	質的・実体的/比較
		・ 実験の結果を整理して、それぞれの気体に物を燃やすはたらきがあるかどうかをまとめる。	質的・実体的/比較
		・ 酸素には物を燃やすはたらきがあり、窒素と二酸化炭素にはないことを理解する。	質的・実体的/比較
		・ 物が燃えるには、酸素が必要であることを理解する。	質的・実体的/比較
3.ものが燃えるときの空気の変化	3	○ 物を燃やす前と後の空気の違いを、気体検知管と石灰水を使って調べる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 気体検知管、石灰水などの使い方を理解する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 物を燃やす前の瓶の中の酸素と二酸化炭素の割合を、気体検知管と石灰水を使って調べ、記録する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 瓶の中でろうそくを燃やした後の酸素と二酸化炭素の割合を、気体検知管と石灰水を使って調べ、記録する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 調べたことから、物を燃やす前と後の空気の変化についてまとめる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 物が燃えるときは空気中の酸素が使われ、物が燃えると二酸化炭素が発生することを理解する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
○たしかめよう	1	○ 燃焼の仕組みについて学んだことを生かして問題を解く。	質的・実体的/多面的に考える

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
理科	6	啓林		24 ~ 45	10	5 ~ 6	

大単元(題材名)	2. ヒトや動物の体		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 生命・地球		
関連する道徳の内容項目	D生命の尊さ／自然愛護		

【到達目標】

知・技	○ ヒトの消化・吸収，呼吸，血液の循環に関わる体内の各器官のつくりとはたらきがわかる。
	○ ヒトの体とほかの動物の体との差異点や共通点がわかる。
	○ 唾液のはたらきや，呼吸の仕組みを調べる実験が安全にできる。
	○ ヒトや動物の体のつくりやはたらきについて，本やコンピュータなどで必要な情報を集めることができる。
思・判・表	○ ヒトや動物の消化・吸収，呼吸，血液の循環について，経験したことや既習内容から予想を立てることができる。
	○ 予想や仮説を確かめるための実験計画を立てることができる。
	○ 実験の結果や調べたことを多面的に考察し，妥当な結論を導き出すことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ ヒトや動物の体のつくりやはたらきについて粘り強く追求する活動を通して，生命を維持する働きを知り，生命を尊重しようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 食べ物は，口，胃，腸などの消化管を通る間に消化・吸収され，吸収されなかった物は排出されることを理解している。	B(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ ヒトは呼吸によって体内に酸素を取り入れ，体外に二酸化炭素を出していることを理解している。	B(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ 血液は，心臓のはたらきで体内を循環し，養分，酸素，二酸化炭素などを運んでいることを理解している。	B(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ 体内には，生命活動を維持するための様々な臓器があることと，そのはたらきを理解している。	B(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ 唾液のはたらきや呼吸の仕組みを調べる実験を安全に行っている。	B(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ 唾液のはたらきや呼吸の仕組みを調べる実験の結果を，正確に記録している。	B(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ ヒトや動物の体の構造や各器官のはたらきについて，本やコンピュータなどで必要な情報を集めている。	B(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
思・判・表	○ 燃焼の仕組みで学習したことから，呼吸のはたらきについて予想し，実験の計画を立てている。	B(1)イ
	○ 血液のはたらきを，消化や呼吸などのはたらきから総合的に考えて予想している。	B(1)イ
	○ 立てた予想を発表している。	B(1)イ
	○ 友だちの意見を聞いて，自分の予想の妥当性について考えている。	B(1)イ
	○ 実験結果や本やコンピュータなどで調べたことをもとに考察し，ヒトやほかの動物は様々な臓器が関わり合いながら生命を維持していることを導き出している。	B(1)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ ヒトや動物の体の構造やはたらきに興味・関心をもち，本やコンピュータなどを活用しながら調べている。	
	○ 唾液のはたらきを調べる実験結果をもとに考察したことについて，自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 呼吸のはたらきを調べる実験計画について，友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。	
	○ ヒトや動物の体のつくりやはたらきの学習で，わかったこととまだわからないこと，できるようになったこととまだできないことが何かを，自分で考えている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
3 年	身の回りの生物
4 年	人の体のつくりと運動
5 年	植物の発芽，成長，結実(種子の中の養分)
5 年	動物の誕生(魚)
6 年	燃焼の仕組み

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
○導入	1	○ ヒトや動物は、生きていくために必要なものをどのように体内に取り入れているのか考える。	共通性・多様性/多面的に考える
		・ 食べることや呼吸することについて気づいたことを話し合う。	共通性・多様性/多面的に考える
1.食べ物のゆくえ①	1	○ 唾液によるでんぷんの変化を調べる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ ご飯をよくかむと甘く感じるようになるのはなぜか話し合う。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 食べ物が口の中でどのように変化するのか、でんぷんと唾液に着目して予想し、ヨウ素液を使った実験の計画を立てる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 実験の結果から考察し、でんぷんは口の中で唾液とまざるとでんぷんではない別の物に変化することを導き出す。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 消化の意味と消化液について理解する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
1.食べ物のゆくえ②	1	○ 食べ物の体内での消化と吸収の仕組みについて調べる。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 食べた物が体内でどうなるのか話し合う。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 図鑑や模型、コンピュータなどを使って、消化と吸収の仕組みについて調べる。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 口から食道、胃、小腸、大腸、肛門までの食べ物の通り道を消化管ということを理解する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 食べ物は消化によって養分に変化し、小腸で吸収され、血管を通して全身に運ばれたり肝臓に蓄えられたりすることを理解する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 吸収されずに残ったものは、便として肛門から排出されることを理解する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
2.ヒトや動物と空気	2	○ 吸う空気と吐き出した息の違いについて調べる。	質的・実体的/共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ ヒトや動物が、なぜ空気を吸ったり息を吐き出したりしているのか話し合う。	質的・実体的/共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 燃焼の仕組みの学習を振り返り、吸う空気と吐き出した息の違いについて予想を立て、実験の計画を立てる。	質的・実体的/共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 吸う空気と吐き出した息をそれぞれ袋に入れ、気体検知管や石灰水を使って成分を調べる。	質的・実体的/共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 実験の結果から、考察を行い、まとめる。	質的・実体的/共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ ヒトや動物は空気を吸って酸素を体内に取り入れ、体外に二酸化炭素を吐き出していることを理解し、これを呼吸ということを理解する。	質的・実体的/共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 酸素は肺を通して血液中に取り入れられ、全身に運ばれることを理解する。	質的・実体的/共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 体内でできた二酸化炭素は、血液中に取り入れられて肺に運ばれ、肺から吐き出す息によって体外に出されることを理解する。	質的・実体的/共通性・多様性/関係付け/多面的に考える

3.体をめぐる血液	3	○ 血液の流れとはたらきについて調べる。	共通性・多様性/関係付け
		・ 心臓のはたらきと、拍動、脈拍について理解する。	共通性・多様性/関係付け
		・ 脈を探して脈拍を数えたり、手や聴診器で拍動を数えて脈拍の回数と比べたりする。また軽い運動を行って脈拍の変化を調べる。	共通性・多様性/関係付け
		・ 血液は心臓から送り出され、血管を通して全身に運ばれ、また心臓に戻ることを理解する。	共通性・多様性/関係付け
		・ 血液の流れやはたらきを、これまでの学習から考えて予想する。	共通性・多様性/関係付け
		・ 図鑑や模型、コンピュータなどを使って血液の通り道とはたらきについて調べる。	共通性・多様性/関係付け
		・ 血液は全身に酸素や養分を運び、二酸化炭素や体内でできた不要物を受け取っていることを理解する。	共通性・多様性/関係付け
		・ 心臓から肺へ送られた血液は、肺で二酸化炭素を出し、酸素を受け取って再び心臓に戻ることを理解する。	共通性・多様性/関係付け
		・ 体内でできた不要物は血液によって腎臓へ運ばれ、尿として排出されることを理解する。	共通性・多様性/関係付け
4. 生命を支えるしくみ	1	○ 血液の流れから見た臓器のつながりをまとめる。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 食べ物の消化吸収、呼吸、排便や排尿について、血液の流れを通した臓器どうしのつながりをまとめる。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 臓器は、血液によってつながり合ってはたらくていることを理解する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
○たしかめよう	1	○ ヒトや動物の体のつくりやはたらきについて学んだことを生かして問題を解く。	共通性・多様性/多面的に考える

2023	年度								
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月			
理科	6	啓林		46	8	6		6	

大単元(題材名)	3. 植物のつくりとはたらき		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 生命・地球		
関連する道徳の内容項目	C国際理解, 国際親善	D生命の尊さ／自然愛護	

【到達目標】

知・技	○ 根・茎・葉には水の通り道があることがわかる。
	○ 根から取り入れられた水は、水の通り道を通して体全体に行き渡り、葉から蒸散していることがわかる。
	○ 植物も動物と同じように呼吸をしていることと、日光が当たると二酸化炭素を取り入れ酸素を出していることがわかる。
	○ 植物が出し入れする気体は何かを調べる実験を適切に行い、その結果を記録することができる。
	○ 葉に日光が当たると、でんぶんができることがわかる。
	○ 日光を当てた葉と当てない葉で、でんぶんのでき方を比べる実験を適切に行い、その結果を記録することができる。
思・判・表	○ 植物と水や養分との関わりについて問題を見つけることができる。
	○ 予想や仮説を確かめるための実験計画を立てることができる。
	○ 葉の蒸散実験の結果から、より妥当な考えを導き出し、表現することができる。
	○ 日光とでんぶんのでき方との関係を調べる実験結果から、より妥当な考えを導き出し、表現することができる。
	○ 葉にできた養分が、植物の成長とどのように関わっているかを考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 植物の水との関わりについて粘り強く追究する活動を通して、水の通り道や蒸散について知り、まとめようとする。
	○ 植物の成長と日光との関わりについて粘り強く追究する活動を通して、葉ででんぶんをつくるはたらきについて知り、まとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 植物の水の通り道を理解している。	B(2)ア(ア)(イ) (3)ア(ア)
	○ 根から取り入れられた水は、葉から蒸散していることを理解している。	B(2)ア(ア)(イ) (3)ア(ア)
	○ 植物の蒸散実験を条件制御しながら適切に行い、結果を正確に記録している。	B(2)ア(ア)(イ) (3)ア(ア)
	○ 植物も動物と同じように呼吸をして、酸素を取り入れ二酸化炭素を出すことを理解している。	B(2)ア(ア)(イ) (3)ア(ア)
	○ 日光が当たると、植物は二酸化炭素を取り入れ酸素を出していることを理解している。	B(2)ア(ア)(イ) (3)ア(ア)
	○ 気体検知管を用いて、植物が出し入れする気体は何かを適切に調べている。	B(2)ア(ア)(イ) (3)ア(ア)
	○ でんぶんができるためには、葉に日光が当たることが必要であることを理解している。	B(2)ア(ア)(イ) (3)ア(ア)
	○ 葉ででんぶんができるために必要な条件を調べた実験結果を、正確に記録している。	B(2)ア(ア)(イ) (3)ア(ア)
思・判・表	○ 5年生の植物の発芽の学習をもとに、植物の成長にでんぶんが必要かどうかについて根拠のある予想を立てている。	B(2)イ (3)イ
	○ 立てた予想を発表したり、文章にまとめている。	B(2)イ (3)イ
	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	B(2)イ (3)イ
	○ 予想を確かめるための実験を計画している。	B(2)イ (3)イ
	○ 植物の蒸散実験の結果をもとに、葉まで行き渡った水のゆくえについて考え、わかりやすく表現している。	B(2)イ (3)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ 植物の水の通り道を調べる実験計画について、友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。	
	○ 植物と空気との関わりについて、根拠のある予想・仮説を立てて実験し、実験内容と結果を関係付けて自分の考えをまとめている。	
	○ 植物の成長と日光の実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 植物のつくりとはたらきの学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	
	○ 植物に関心をもって、大切にしようとしている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
3年	身の回りの生物
4年	季節と生物
4年	天気の様子(水の自然蒸発と結露)
4年	人の体のつくりと運動
5年	植物の発芽, 成長, 結実
6年	燃焼の仕組み
6年	人の体のつくりと働き

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
○導入	1	○ 教科書P.46, 47のビルの屋上まで伸びる植物の写真を見て, 気づいたことを話し合う。 ・ 植物の成長に必要なものは何であったか, これまでの学習を思い出して話し合う。	共通性・多様性/関係付け 共通性・多様性/関係付け
1.植物と水①	1	○ 植物に取り入れられる水の通り道を調べる。 ・ しおれた植物に水を与えると, なぜもとに戻るのかを話し合う。 ・ 根が取り入れた水は, 植物のどこを通過して体全体に行き渡るのか予想する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える 共通性・多様性/関係付け/多面的に考える 共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 色水を使って, 植物に取り入れられる水の通り道を調べる。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 植物の根についた土を洗い落とし, 根を色水に数時間浸して根, 茎, 葉の色の変化と水面の高さの変化を観察する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 根, 茎, 葉をナイフで切り, 虫眼鏡などで切り口のようにすを観察し, 色水で染まった部分を記録する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 実験の結果から, 植物には根から茎, 葉へと続く水の通り道があり, この通り道を通して植物全体に水が行き渡ることを理解する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
1.植物と水②	1	○ 葉まで運ばれた水がその後どうなるのかゆくえを調べる。 ・ 植物に取り入れられ, 葉まで運ばれた水がその後どうなるのか, 予想して実験の計画を立てる。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御 共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
		・ 葉を全て取った植物と葉をつけたままの植物に, ポリエチレンの袋を被せて口を縛り, 約15分後, 袋の内側のようすを観察する。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
		・ 実験の結果から考察し, 水は葉から水蒸気として出ていくことを導き出す。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
		・ 植物の体から水が水蒸気となって出ていくことを蒸散といい, 出ていく小さな穴を気孔ということを理解する。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
2.植物と空気	1	○ 植物での気体の出入りを調べる。 ・ 植物の気体のやり取りを予想して実験の計画を立てる。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御 共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
		・ 穴をあけた袋を植物の葉に被せて穴からストローで息を吹き込み, その空気を5回ほど吸ったり吐いたりしてから穴をふさぐ。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
		・ 袋の中の酸素と二酸化炭素の割合を気体検知管で調べ, さらに日光に当てて1時間後にもう一度測定し, 割合の変化を調べる。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
		・ 実験の結果から, 植物の葉は日光が当たっているときには, 空気中の二酸化炭素を取り入れ, 酸素を出すことを理解する。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
		・ 植物には, 水のほかに二酸化炭素が必要であることを理解する。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御

3.植物と養分	3	○ 日光と葉のでんぷんについて調べる。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
		・ 5年生の植物の発芽と成長の学習を振り返り、日光と植物の成長にはどのような関係があるのか話し合う。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
		・ 植物の葉に日光が当たるとでんぷんができるのか、調べる方法を考える。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
		・ 葉のでんぷんの有無の調べ方を理解する。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
		・ 前日の夕方に3枚の葉をアルミニウム箔で包んでおき、翌日の朝、1枚目の葉のアルミニウム箔を外し、でんぷんの有無を調べる。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
		・ 2枚目の葉はアルミニウム箔を外し、3枚目の葉はアルミニウム箔をつけたまま日光に当てておく。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
		・ 4, 5時間後、日光に当てておいた2枚の葉のでんぷんの有無を調べる。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
		・ 実験の結果から考察し、葉に日光が当たると、でんぷんがつくられることを導き出す。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
		・ 植物の葉に日光が当たってでんぷんがつくられること、植物は生きるための養分を自分でつくっていることを理解する。	共通性・多様性/比較/関係付け/条件制御
○たしかめよう	1	○ 植物のつくりとはたらきについて学んだことを生かして問題を解く。	共通性・多様性/多面的に考える

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
理科	6	啓林		66	7	6	7

大単元(題材名)	わたしたちの地球(1)		
中単元(曲名)	4. 生物どうしのつながり		
主領域／領域／内容の区分	B 生命・地球		
関連する道徳の内容項目	D生命の尊さ／自然愛護		

【到達目標】

知・技	○ 生物は、「食べる・食べられる」という関係でつながっていることがわかる。
	○ 動物の食べ物のもとをたどると、自分で養分をつくる生物に行きつくことがわかる。
	○ 生物どうしの「食べる・食べられる」という一連の関係を食物連鎖ということがわかる。
	○ 生物は、水や空気を通して関わり合って生きていることがわかる。
	○ 顕微鏡を正しく使い、水中の小さな生物を観察することができる。
	○ 本やコンピュータなどの様々な資料を利用して、必要な情報を集めることができる。
思・判・表	○ 生物と食べ物、生物と空気や水との関わりを調べ、自然界のつながりを総合的にとらえ、生物と環境との関係を図や言葉を使ってわかりやすくまとめることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 生物と環境との関わりについて粘り強く追究する活動を通して、生物が水や空気を通して周囲の環境と関わって生きていることや、生物間には「食べる・食べられる」という関係があることを知り、まとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 生物は、「食べる・食べられる」という関係でつながっていることを理解している。	B(3)ア(ア)(イ)
	○ 動物の食べ物のもとをたどると、自分で養分をつくる生物に行きつくことを理解している。	B(3)ア(ア)(イ)
	○ 生物どうしの「食べる・食べられる」という一連の関係を食物連鎖ということを理解している。	B(3)ア(ア)(イ)
	○ 顕微鏡を正しく使い、水中の小さな生物を観察している。	B(3)ア(ア)(イ)
	○ 生物は、水や空気を通して関わり合って生きていることを理解している。	B(3)ア(ア)(イ)
	○ 本やコンピュータなどを活用し、必要な情報を集めている。	B(3)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ 今までに学習したことをもとに、生物が食べ物や空気、水を通してどのように関わり合っているのかということや、水と生物の関係について、根拠のある予想を立てている。	B(3)イ
	○ 立てた予想を発表したり、文章にまとめている。	B(3)イ
	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	B(3)イ
	○ 生物の食べ物を通した関わり合いについて、様々な動物の食べ物を調べた結果をもとに発表し合い、多面的に考察している。	B(3)イ
	○ 考察から、生物と食べ物、空気、水との関わりを総合的に導き出してまとめている。	B(3)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ 生物と食べ物の関わりについて粘り強く追究し、食物連鎖について考察している。	
	○ 生物と空気との関わりを調べて考察したことを、人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 生物と環境との関わりでの学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	
	○ 生物に関心をもって、大切にしようとしている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
3	年 身の回りの生物
4	年 季節と生物
5	年 動物の誕生
6	年 植物の養分と水の通り道
6	年 人の体のつくりと働き

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
○導入	1	○ 教科書P.66, 67のカワセミが魚を捕まえる写真などを見て, 気づいたことを話し合う。	共通性・多様性/比較/関係付け
		・ 生物どうしが, 食べ物などを通して, どのように関わり合っているのか, これまで学習したことを振り返り, 話し合う。	共通性・多様性/比較/関係付け
1.食べ物を通した生物のつながり①	1	○ 食べ物のもとを調べる。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 私たちが食べているものは, どのように養分を取り入れているのかを考えて話し合う。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 教科書P.69に提示された2つの料理の食材を書き出し, 植物と動物に分けて, それぞれの生物がどのように養分をとっているか調べる。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 本やコンピュータなどを活用して, 食べ物のもとをたどって行きつく生物を調べる。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 食べ物のもとをたどると, 自分で養分をつくる生物に行きつくことをまとめる。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 生物どうしは, 「食べる・食べられる」の関係でつながっており, このつながりを食物連鎖とすることを理解する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
1.食べ物を通した生物のつながり②	2	○ 自然の池や川でも食物連鎖が見られるか調べる。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ プレパラートの作り方を理解する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 池や川の水を網ですくって水の中に洗い出し, 顕微鏡で観察して見つけた生物をメダカに与え, メダカが食べるか調べる。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 実験の結果から, 水中の生物どうしも食物連鎖でつながり合っていることを理解する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
2.空気や水を通した生物のつながり	2	○ 生物が空気や水を通してどのように関わり合っているか確かめる。	共通性・多様性/比較/条件制御/多面的に考える
		・ 植物や動物が空気や水とどのように関わり合っていたか, これまでの学習を思い出して話し合う。	共通性・多様性/比較/条件制御/多面的に考える
		・ 植物と動物の酸素と二酸化炭素の出入りを示す矢印を教科書P.77の図に書き入れ, 空気を通しての関わり合いを確かめる。	共通性・多様性/比較/条件制御/多面的に考える
		・ 水と水蒸気の出入りを示す矢印を教科書P.77の図に書き入れ, 生物とその間をどのようにめぐっているか確かめる。	共通性・多様性/比較/条件制御/多面的に考える
		・ 空気も水も, 動植物の体を出たり入ったりしており, 生物が生きていくために欠かせないものであることを理解する。	共通性・多様性/比較/条件制御/多面的に考える
○たしかめよう	1	○ 生物と環境との関わりについて学んだことを生かして問題を解く。	共通性・多様性/多面的に考える

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
理科	6	啓林		92	14	9	10

大単元(題材名)	5. 水よう液の性質		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 物質・エネルギー		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 溶けているもの、色、においなどの性質から、水溶液を分けることができる。
	○ 水溶液には気体や固体が溶けているものがあり、酸性・中性・アルカリ性に分けられることがわかる。
	○ 水溶液を扱う実験を安全に行い、その結果を正確に記録することができる。
思・判・表	○ 予想や仮説を確かめるための実験計画を立てることができる。
	○ 金属が溶けた水溶液を加熱して得られるものの性質から、金属が水溶液によって質的に変化していることを説明することができる。
	○ 水溶液の性質を調べる実験の結果から、より妥当な考えを導き出し、表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 水溶液の性質について粘り強く追究する活動を通して、水溶液の性質やはたらきの違いについて知り、まとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 水溶液には、気体が溶けているものと固体が溶けているものがあることを理解している。	A(2)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 水溶液は、その性質によって酸性・アルカリ性・中性に分けられることを理解している。	A(2)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 水溶液には、金属を変化させるものがあることを理解している。	A(2)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ リトマス紙を使って水溶液の性質を調べ、その結果を記録している。	A(2)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 水溶液を扱う際の注意事項を知り、正しく取り扱っている。	A(2)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 水溶液を扱う実験を安全に行い、その結果を正確に記録している。	A(2)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	A(2)イ
	○ リトマス紙を使って水溶液の性質を調べ、赤色と青色のリトマス紙のそれぞれの色の変化を表にわかりやすくまとめている。	A(2)イ
	○ 金属が溶けた水溶液を加熱して得られるものの性質から、金属が水溶液によって質的に変化していることを関係づけてわかりやすく表現している。	A(2)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ 5種類の水溶液は、どうすれば区別することができるのか、根拠のある予想を立てて実験の計画を立てている。	
	○ 水溶液の性質を調べる実験計画について、友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。	
	○ 水溶液の性質を調べる実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 水溶液の性質の学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
5 年	物の溶け方
6 年	燃焼の仕組み

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
○導入	1	○ 身の回りの水溶液について気づいたことを話し合う。	質的・実体的/比較
		・ 5年生で水溶液について学習したことを振り返り、身の回りの水溶液について気づいたことを話し合う。	質的・実体的/比較
1. いろいろな水よう液①	2	○ 5種類の水溶液を区別する方法を調べる。	質的・実体的/比較
		・ 全て透明な5種類の水溶液を区別する方法を話し合って予想し、実験の計画を立てる。	質的・実体的/比較
		・ ビベットの使い方を理解する。	質的・実体的/比較
		・ 5種類の水溶液の見た目のようすやにおいの違いを調べ記録する。	質的・実体的/比較
		・ 5種類の水溶液を蒸発させ、残った物のようすを調べ記録する。	質的・実体的/比較
		・ 調べた結果をまとめた表の考察から、5種類の水溶液を3つの仲間には分けられるが、それ以上は区別できないこと導き出す。	質的・実体的/比較
		・ 水溶液は、見た目のようすやにおい、蒸発させたときのようすで区別できるものもあることを理解する。	質的・実体的/比較
		・ 蒸発させても何も残らない水溶液もあることを理解する。	質的・実体的/比較
		・ 蒸発実験で何も残らなかった水溶液には何が溶けているのか、次の問題につなげる。	質的・実体的/比較
		・ 何も残らなかった水溶液には気体が溶けていることを理解する。	質的・実体的/比較
1. いろいろな水よう液②	2	○ 炭酸水に二酸化炭素が溶けていることを調べる。	質的・実体的/多面的に考える
		・ 二酸化炭素の性質を利用して、炭酸水に二酸化炭素が溶けていることを確かめるための実験計画を立てる。	質的・実体的/多面的に考える
		・ 炭酸水から出る気体を試験管2本に集め、1本には石灰水を入れて、もう1本には火のついた線香を入れて気体の性質を調べる。	質的・実体的/多面的に考える
		・ 石灰水が白く濁る・火がすぐ消えるなどの実験結果から、炭酸水には二酸化炭素が溶けているといえることを理解する。	質的・実体的/多面的に考える
		・ 水溶液には、固体だけでなく気体が溶けているものがあることを理解する。	質的・実体的/多面的に考える
		・ 見た目のようすやにおい、溶けている物のほかに、水溶液を区別する方法があるのか、次の問題につなげる。	質的・実体的/多面的に考える
2. 水よう液の仲間分け	2	○ リトマス紙を使って5種類の水溶液を調べる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ リトマス紙の使い方を理解する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 赤色と青色のリトマス紙に調べる水溶液をつけて、色の変化を観察し記録する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ リトマス紙の色の変化から、いくつかの仲間に分けることができるかを考える。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 仲間分けできた水溶液の3つの性質は、酸性・中性・アルカリ性ということを理解する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 見た目・におい・蒸発実験で3つの仲間に分けたものにリトマス紙を使うと5種類に区別できることを理解する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
3. 水よう液と金属①	2	○ 金属に塩酸を加えたときの変化を調べる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 塩酸の入った容器には金属が使われていないことから問題を見つける。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 塩酸を含む水溶液が金属製品に使えない理由を、金属に塩酸を加えて調べる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 鉄とアルミニウムを別々の試験管に入れたものを、それぞれ2組ずつ用意する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 1組目には塩酸を、2組目には水を入れ、それぞれの変化のようすを比較する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 鉄やアルミニウムは、塩酸を加えると泡を出し、小さくなって見えなくなることを理解する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 鉄やアルミニウムは、水を加えても変化しないことを理解する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 塩酸には、鉄やアルミニウムなどの金属を溶かすはたらきがあるので、金属製品に使えないことを理解する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 塩酸を加えて溶けた金属は、溶けた液体の中に残っているのかどうか、次の問題につなげる。	質的・実体的/比較/多面的に考える

3. 水よう液と金属②	2	○ 塩酸に溶けた金属について調べる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 塩酸に溶けて見えなくなった金属はどうなったかを予想し、実験計画を立てる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 塩酸に鉄が溶けた液体から上澄み液を取り、弱火で加熱し、蒸発皿に残った物のようすを調べる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 塩酸にアルミニウムが溶けた液体も同様にし、残った物のようすを調べる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 実験の結果、固体が出てきたことから、金属は塩酸の中に溶け込んでいたことを考察する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 出てきた固体が、もとの金属とは見た目が違うことから、次の問題につなげる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
3. 水よう液と金属③	2	○ 塩酸に金属が溶けた液体から出てきた固体について調べる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ もとの金属と同じ物が調べるにはどうすればよいか、もとの金属の性質から考えて実験の計画を立てる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ もとの金属と出てきた固体の見た目を比べる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ もとの金属と出てきた固体に磁石を近づけ、磁石につくか調べる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ もとの金属と出てきた固体をそれぞれ試験管に入れ、塩酸を加えて変化を比べる。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 実験の結果をもとに、出てきた固体はもとの金属と同じ物といえるか話し合う。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 塩酸に金属が溶けた液体から水を蒸発させて出てきた固体は、もとの金属と性質が違っていることを理解する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
		・ 水溶液には金属の性質を変化させるものがあることを理解する。	質的・実体的/比較/多面的に考える
○たしかめよう	1	○ 水溶液の性質について学んだことを生かして問題を解く。	質的・実体的/多面的に考える

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
理科	6	啓林		112 ~ 121	6	10 ~ 11	

大単元(題材名)	6. 月と太陽		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 生命・地球		
関連する道徳の内容項目	C伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度／国際理解, 国際親善		

【到達目標】

知・技	○ 月は太陽の光を受けて輝いていることと、月の形の見え方が日によって変化するのは、月と太陽の位置が関係していることがわかる。
	○ 月の形の変化や月と太陽の位置について、安全に観察したり記録したりすることができる。
	○ 月の形の見え方と太陽の位置との関係を調べる実験を適切に行い、その結果を記録することができる。
思・判・表	○ 予想や仮説を確かめるための実験計画を立てることができる。
	○ 月の形の変化を、太陽、月、地球の位置と関係づけてとらえ、その関係を説明することができる。
	○ 月の形の見え方と太陽の位置との関係を調べる実験の結果から、より妥当な考えを導き出し、表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 月の形とその変化について粘り強く追究する活動を通して、月の形の見え方と太陽の位置の関係について知り、まとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

【評価規準】		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 月は太陽の光を受けて輝いていることを理解している。	B(5)ア(ア)
	○ 月の形の見え方が日によって変化するのは、月と太陽の位置が関係していることを理解している。	B(5)ア(ア)
	○ 月と太陽の位置について調べる観察を安全に行い、観察結果を正確に記録している。	B(5)ア(ア)
	○ 月の形の見え方と太陽の位置との関係を調べる実験を適切に行い、結果を正確に記録している。	B(5)ア(ア)
思・判・表	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	B(5)イ
	○ 予想を確かめるための実験を計画している。	B(5)イ
	○ 月と太陽の位置について調べた観察結果をもとに、図に描いて正確にわかりやすく表現している。	B(5)イ
	○ 月の形が変化することを、月と太陽の位置関係が変化することと関係づけてとらえ、月の形が変化して見える理由を、図や言葉でわかりやすく表現している。	B(5)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ 月の形の見え方が日によって変化する理由について、根拠のある予想・計画を立てて実験し、実験内容と結果とを関係づけて自分の考えをまとめている。	
	○ 月の形の見え方と太陽の位置との関係を調べる実験計画について、友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。	
	○ 月の形の見え方と太陽の位置との関係を調べる実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 月と太陽の学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
3	年 太陽と地面の様子
4	年 月と星
	年

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
○導入	1	○ 教科書P.112, 113の写真を見て, 気づいたことを話し合う。	時間的・空間的/関係付け
		・ 月と日光の当たった給水タンクの写真を見て, 疑問に思ったことや気づいたことを話し合う。	時間的・空間的/関係付け
1. 月の形の変化と太陽	4	○ 月の形が変化する理由を調べる。	時間的・空間的/比較/関係付け/条件制御/多面的に考える
		・ 月は球形をしていて, 太陽の光が当たっている部分だけが見えていることを理解する。	時間的・空間的/比較/関係付け/条件制御/多面的に考える
		・ 夕方に見える月を観察し, 月の形の見え方と位置, 太陽の位置を調べ, 記録する。	時間的・空間的/比較/関係付け/条件制御/多面的に考える
		・ 数日後の同時刻に見える月を観察し, 月の形の見え方と位置, 太陽の位置を調べ, 記録する。	時間的・空間的/比較/関係付け/条件制御/多面的に考える
		・ 月の形の見え方が日によって変化するの, 月と太陽の位置に関係があるのか, 調べるための実験計画を立てる。	時間的・空間的/比較/関係付け/条件制御/多面的に考える
		・ 月に見立てたボールの位置を動かして, 太陽に見立てた電灯の光を当てる実験を行い, 月の形の見え方の変化を調べ, 記録する。	時間的・空間的/比較/関係付け/条件制御/多面的に考える
		・ 実験の結果をもとに, 月の形と太陽の位置関係には何かきまりがあるのか考察する。	時間的・空間的/比較/関係付け/条件制御/多面的に考える
		・ 月の輝いている側に太陽があり, 月と太陽の位置関係が変わるため月の形の見え方が変わることを理解する。	時間的・空間的/比較/関係付け/条件制御/多面的に考える
○たしかめよう	1	○ 月と太陽について学んだことを生かして問題を解く。	時間的・空間的/多面的に考える

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
理科	6	啓林		122 ~ 151	16	11 ~ 12	

大単元(題材名)	7. 大地のつくりと変化		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 生命・地球		
関連する道徳の内容項目	C伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度／国際理解, 国際親善	D生命の尊さ／自然愛護	

【到達目標】

知・技	○ 大地は、礫、砂、泥、火山灰などからできていて、それぞれの層は、広い範囲で積み重なっていることがわかる。
	○ 地層は、流れる水のはたらきや火山の噴火によってできることがわかる。
	○ 大地は、火山の噴火や地震によってようすが変化することがわかる。
	○ 地層のようすを安全に観察したり、層に含まれている礫や砂などを採取して調べることができる。
	○ 火山活動や地震による災害や防災・減災活動などについて、本やコンピュータ、博物館などを活用して必要な情報を集めることができる。
思・判・表	○ 予想や仮説を確かめるための実験計画を立てることができる。
	○ 層の構成物などから、流れる水のはたらきでできた層か、火山のはたらきでできた層かを導き出すことができる。
	○ 地層を観察した結果から、より妥当な考えを導き出し、表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 大地のつくりと変化について粘り強く追究する活動を通して、地層のでき方や火山活動や地震による大地の変化について知り、まとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 大地は、礫、砂、泥、火山灰などからできていることを理解している。	B(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 地層は、流れる水のはたらきによって運搬された礫や、砂、泥などが、海底などに層になって積み重なり、それが繰り返されることによってできることを理解している。	B(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 地層から見つかる動物や植物の一部、動物のすみか、足あとなどを化石ということを理解している。	B(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 地層のようすを安全に観察したり、層に含まれている礫や砂などを採取して調べ、その結果をわかりやすく記録している。	B(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 博物館や科学館、本やコンピュータなどを活用して必要な情報を集め、その結果をわかりやすくまとめている。	B(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 火山活動や地震によって大地が変化することを理解している。	B(4)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	B(4)イ
	○ 層の構成物からその地層のでき方を予想し、わかりやすくまとめて表現している。	B(4)イ
	○ 博物館や本やコンピュータなどで調べたことから、火山活動や地震と大地が変化することに関係づけてわかりやすく表現している。	B(4)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ 地層のでき方について、根拠のある予想・仮説を立てて実験し、実験内容と結果とを関係づけて自分の考えをまとめている。	
	○ 地層のでき方を調べる実験計画について、友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。	
	○ 地層のでき方を調べる実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 大地のつくりと変化の学習で、火山活動や地震によって大地が変化することを知り、防災や減災対策で自分たちにできることを考え、取り組もうとしている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
4	年 雨水の行方と地面の様子
5	年 流れる水の働きと土地の変化

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
○導入	1	○ 教科書P.122, 123の地層の写真を見て、気づいたことを話し合う。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ 崖の縞模様や、その縞模様が曲がっていたり遠くまで続いていることに着目し、気づいたことを話し合う。	時間的・空間的/比較/関係付け
1.大地のつくり	4	○ 地層について調べる。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ 地層はどのようなものからできているのか、どうすれば地層を調べることができるかを話し合っ	時間的・空間的/比較/関係付け
		て計画を立てる。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ 崖などで地層を観察し、地層全体の様子、それぞれの層をつくっている粒の大きさや形、手触りなどを調べる。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ ボーリング試料を地表からの深さの順に並べたり、層の粒を調べて深さで表した図にまとめる。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ 博物館の展示やコンピュータを利用して調べる。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ 調べた結果から、地層は礫・砂・泥、火山灰などが層になって積み重なってできていることを理解し、まとめる。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ 地層には化石が含まれていることもあることや、地層は横にも奥にも広がっていることを理解する。	時間的・空間的/比較/関係付け
2.地層のでき方①	4	○ 水のはたらきによる地層のでき方を調べる。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ 5年生の「流れる水のはたらき」の学習をもとに、水のはたらきによる地層のでき方を調べる。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ 水のはたらきによる地層のでき方について話し合う。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ ペットボトルに礫・砂・泥をまぜた土を入れ、水を入れてよく振りまぜ、どのように堆積したか観察する。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ 堆積のモデル装置を作り、礫・砂・泥をまぜた土を水で静かに流し込む実験をして結果を記録する。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ 実験の結果から、礫・砂・泥は、粒の大きさに分かれて水底に堆積することを理解する。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ 地層はこのような堆積が何度も繰り返されてできることを理解する。	時間的・空間的/比較/関係付け
2.地層のでき方②	2	○ 火山灰の粒の特徴について調べる。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ 火山灰を水でよく洗い、水の濁りがなくなったら乾かしてからペトリ皿に移し、双眼実体顕微鏡で火山灰と砂の粒を観察し、比較する。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ 火山灰の粒は、角張ったものが多く、ガラスのかけらのような透明なものもあることを理解する。	時間的・空間的/比較/関係付け
		・ 火山灰は、流れる水のない場所でも降り積もり、地層をつくることを理解する。	時間的・空間的/比較/関係付け
3.火山や地震と大地の変化	3	○ 火山活動や地震による大地の変化について調べる。	時間的・空間的/関係付け/多面的に考える
		・ 火山活動や地震による大地の変化について、本やコンピュータ、専門施設で資料を集めたり、地域の人に話を聞いたりして調べる。	時間的・空間的/関係付け/多面的に考える
		・ 火山活動や地震による災害についても調べる。	時間的・空間的/関係付け/多面的に考える
		・ 火山活動によって、山や島ができたり湖ができたりするなど、大地が変化することあることを理解する。	時間的・空間的/関係付け/多面的に考える
		・ 断層ができることで地震が起こり、山崩れや地割れなどで大地が変化することあることを理解する。	時間的・空間的/関係付け/多面的に考える
○火山や地震とわたしたちのくらし	1	○ 火山や地震とわたしたちのくらしの関係について考える。	時間的・空間的/関係付け/多面的に考える
		・ 火山災害や地震災害に備えた様々な取り組みについて理解する。	時間的・空間的/関係付け/多面的に考える
		・ 火山の利用とめぐみについて理解する。	時間的・空間的/関係付け/多面的に考える
○たしかめよう	1	○ 大地のつくりと変化について学んだことを生かして問題を解く。	時間的・空間的/多面的に考える

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
理科	6	啓林		152	10	1	2

大単元(題材名)	8. てこのはたらき		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 物質・エネルギー		
関連する道徳の内容項目	C伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度／国際理解, 国際親善	D生命の尊さ	

【到達目標】

知・技	○ 支点・力点・作用点の用語の意味と、てこを利用した道具の仕組みがわかる。
	○ てこを利用して、小さな力で物を持ち上げることができる。
	○ 実験の結果を、正確にわかりやすく記録することができる。
思・判・表	○ てこの規則性に関する課題について、根拠のある予想や仮説を立てることができる。
	○ 予想や仮説を確かめるための実験計画を立てることができる。
	○ 実験の結果を多面的に考察し、妥当な結論を導き出すことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ てこについて粘り強く追究する活動を通して、身の回りにある様々な道具にてこが利用されていることを知り、てこの規則性やはたらきをまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ てこには、3つの点(支点・力点・作用点)があることを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)
	○ てこの仕組みを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)
	○ てこを利用して物を持ち上げるときの力は、支点から力点や作用点までの位置が関係していることを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)
	○ てこの腕を傾けるはたらきは、おもりの重さ(力の大きさ)×支点からの距離で表せることを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)
	○ 棒の傾いている方が大きな力がはたらいていることと、棒が水平になったときは左右の力の大きさが同じになっていることを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)
	○ てこを扱う実験を安全に行っている。	A(3)ア(ア)(イ)
	○ てこの規則性を調べる実験の結果を、正確に記録している。	A(3)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ 支点から力点や作用点までの距離を変えたときの手応えの変化をもとに、てこの規則性について根拠のある予想を立てている。	A(3)イ
	○ 立てた予想を発表したり、文章にまとめている。	A(3)イ
	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	A(3)イ
	○ 予想を確かめるための実験を計画している。	A(3)イ
	○ てこの3つの点の距離を変えたときの手応えの違いについて、結果をもとに発表し合い、3つの点の位置と手応えとの関係について多面的に考察している。	A(3)イ
	○ 考察から、棒を傾けるはたらきの大きさは、「力点にかかるおもりの重さ」と「支点からの距離」の積になることを導き出している。	A(3)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ てこの規則性について、根拠のある予想・仮説を立てて実験し、実験内容と結果とを関係づけて自分の考えをまとめている。	
	○ てこの実験計画について、友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。	
	○ てこの実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ てこのはたらきの学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
3年	風とゴムの力の働き
5年	振り子の運動

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
○導入	1	○ 教科書P.152, 153のボールを使ってくぎを抜く写真を見て, 気づいたことを話し合う。	量的・関係の/比較
		・ ボールを持つ位置などに着目して, 小さな力でも楽に作業ができる道具について話し合う。	量的・関係の/比較
1.棒を使った「てこ」	3	○ 支点から力点, 支点から作用点までの距離と手応えとの関係について調べる。	量的・関係の/条件制御/ 多面的に考える
		・ てこの仕組みを理解する。	量的・関係の/条件制御/ 多面的に考える
		・ てこをどう使えば重い物を小さな力で持ち上げることができるのか, ボールでの例を参考に, 話し合って予想を立てる。	量的・関係の/条件制御/ 多面的に考える
		・ 棒のてこを使い, 支点と作用点の位置は変えず, 力点の位置だけを動かして手応えの変化を表にまとめる。	量的・関係の/条件制御/ 多面的に考える
		・ 棒のてこを使い, 支点と力点の位置は変えず, 作用点の位置だけを動かして手応えの変化を表にまとめる。	量的・関係の/条件制御/ 多面的に考える
		・ 実験の結果から, 小さな力で持ち上げるには, 力点と作用点をどのようにすればよいのか考察してまとめる。	量的・関係の/条件制御/ 多面的に考える
		・ 支点から力点までは長く, 支点から作用点までは短いほど, 小さな力で重いものを持ち上げられることを理解する。	量的・関係の/条件制御/ 多面的に考える
2.てこのうでをかたむけるはたらき	2	○ 実験用てこを使って, てこが水平につり合うときを調べる。	量的・関係の/多面的に 考える
		・ 実験用てこの左右の腕につるすおもりの重さや位置を変えて, つり合うときのおもりの位置と重さを調べ, 記録する。	量的・関係の/多面的に 考える
		・ 実験の結果から考察し, てこが水平につり合うときの規則性を見つけて, まとめる。	量的・関係の/多面的に 考える
		・ てこが水平につり合うとき, 支点からの距離とおもりの重さは反比例することを理解する。	量的・関係の/多面的に 考える
		・ おもりの重さ×支点からの距離で表されるてこの腕を傾けるはたらきが左右で等しいとき, てこはつり合うことを理解する。	量的・関係の/多面的に 考える
3.てこを利用した道具	3	○ てこを利用した道具の仕組みについて調べる。	量的・関係の/比較/多面的 に考える
		・ てこを利用した道具にどのようなものがあるか話し合う。	量的・関係の/比較/多面的 に考える
		・ てこを利用した道具を探し, 実際に使ってみて, 支点・力点・作用点を見つける。	量的・関係の/比較/多面的 に考える
		・ 調べた道具を支点・力点・作用点の並び方で3つの仲間に分け, 共通する点を考える。	量的・関係の/比較/多面的 に考える
		・ 力点や作用点の位置を変えて道具を使い, 必要な力がどのように変わるか調べ, 気づいたことを記録する。	量的・関係の/比較/多面的 に考える
		・ 実験の結果から, 3つの仲間共通する点と違う点を話し合い, てこを利用した道具のくふうを理解し, まとめる。	量的・関係の/比較/多面的 に考える
○たしかめよう	1	○ てこのはたらきについて学んだことを生かして問題を解く。	量的・関係の/多面的に 考える

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
理科	6	啓林		168	14	2	3

大単元(題材名)	9. 発電と電気の利用		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 物質・エネルギー		
関連する道徳の内容項目	D自然愛護		

【到達目標】

知・技	○ 電気は、ついたり蓄えたりすることができ、光、音、熱、運動など様々な形に変えて利用できることがわかる。
	○ 身の回りには、電気を光、音、熱、運動などに変えて利用している道具がたくさんあることがわかる。
	○ 手回し発電機やコンデンサーを使って実験を行い、その結果を正確に記録することができる。
思・判・表	○ 予想や仮説を確かめるための実験計画を立てることができる。
	○ 豆電球と発光ダイオードの明かりのついている時間の違いから、豆電球よりも発光ダイオードの方が使用する電気の量が少ないことを説明することができる。
	○ 電気を何に変えて利用しているのかを調べる実験の結果から、より妥当な考えを導き出し、表現することができる。
	○ プログラミングの学習で、プログラミングをした目的やその内容をわかりやすく説明することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 電気の利用について粘り強く追究する活動を通して、電気を光、音、熱、運動などに変えて利用していることについて知り、まとめようとする。
	○ プログラミングの学習で、目的に合ったセンサーを選び、粘り強くプログラムを完成させようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 電気は、ついたり蓄えたりすることができ、光、音、熱、運動など様々な形に変えて利用できることを理解している。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 身の回りには、電気を光、音、熱、運動などに変えて利用している道具がたくさんあることを理解している。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 手回し発電機やコンデンサー、光電池などを、安全に正しく取り扱っている。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 手回し発電機やコンデンサーを適切に使って実験を行い、その結果を正確に記録している。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	A(4)イ
	○ 豆電球と発光ダイオードの明かりのついている時間を電気の使用量に関係づけて考え、豆電球よりも発光ダイオードの方が使用する電気の量が少ないことを説明している。	A(4)イ
	○ プログラミングの学習で、エネルギーを効率よく使用するためのプログラムを考えている。	A(4)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ 発電・蓄電について調べる実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ エネルギーの変換を調べる実験計画について、友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。	
	○ 豆電球と発光ダイオードの点灯時間について、根拠のある予想・仮説を立てて実験し、実験内容と結果とを関係づけて自分の考えをまとめている。	
	○ プログラムが計画通りに動かなかったとき、計画を見直して粘り強くプログラムを完成させている。	
	○ 電気の利用の学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
3	年 電気の通り道
4	年 電気の働き
5	年 電流がつくる磁力

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
○導入	1	○ 教科書P.168, 169の太陽光発電所や風力発電所の写真を見て、気づいたことを話し合う。	量的・関係の/関係付け
		・ 太陽光や風力のほかにどのような発電方法があるのか話し合ったり、電気が身の回りどのように使われているかなどを話し合う。	量的・関係の/関係付け
1.電気をつくる①	3	○ 手回し発電機で発電する。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 身の回りの発電できる道具について話し合い、手回し発電機を使えば電気をつくることのできることを理解する。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 手回し発電機は、乾電池と同じようなはたらきをするのか、予想して調べる。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 手回し発電機に豆電球やモーターをつないで回路を作り、ハンドルを時計回りにゆっくり回してようすを調べて記録する。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 同様に、逆向きに回してようすを調べたり、ハンドルを速く回してようすを調べ、記録する。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 実験の結果から、手回し発電機と乾電池の共通点と違う点をまとめる。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 手回し発電機は、ハンドルを回すと乾電池のように電流が流れ、ハンドルを速く回すと、電流が大きくなることを理解する。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ ハンドルを逆向きに回すと、乾電池をつなぐ向きを逆にしたときのように、電流の流れる向きが逆になることを理解する。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
1.電気をつくる②	2	○ 光電池の発電の特徴を調べる。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 光電池も、乾電池と同じようなはたらきをするのか、光電池の発電の特徴を調べる。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 光電池とモーターをつないで回路を作り、光を当てるとモーターが回ることを確認する。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 光電池のつなぐ向きを逆にして電流の向きを調べ、記録する。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 光電池に当たる光を強くしたり弱くしたりして、電流の大きさに違いがあるか調べ、記録する。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 実験結果から、光電池と乾電池の差異点や共通点をまとめる。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 光電池は、光が当たっているときだけ電流を流すはたらきがあり、当たる光の強さによって電流の大きさが変わることを理解する。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 光電池のつなぐ向きを逆にすると、電流の向きも逆になることを理解する。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
2.電気の利用①	2	○ 発電した電気を蓄えて使うことができるのか調べる。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ コンデンサーの使い方を理解する。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 発電した電気を蓄えて使うことができるのかを予想し、コンデンサーと手回し発電機をつないで電気を蓄え、利用してみる。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ コンデンサーと手回し発電機をつないで、時間・回数を決めて手回し発電機を回し、コンデンサーに電気を蓄える。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 電気を蓄えたコンデンサーに豆電球をつないで、明かりがつく時間を調べ、記録する。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 同様に電気を蓄え、発光ダイオードをつないで、明かりがつく時間を調べて記録し、豆電球のときと比較する。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 実験結果から、豆電球よりも発光ダイオードの方が、少ない電気の量で長く明かりをつけられることを導き出す。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
		・ 発電した電気は蓄電して利用できることを理解する。	量的・関係の/比較/関係付け/条件制御
2.電気の利用②	1	○ 身の回りで電気がどのように利用されているか調べる。	量的・関係の/関係付け/多面的に考える
		・ 身の回りの生活のなかで、電気は光以外にも、音や熱、運動に変えて利用されていることを理解する。	量的・関係の/関係付け/多面的に考える
		・ 身近な電気製品が、電気を光・音・熱・運動のどれに変えて使っているのか、仲間分けする。	量的・関係の/関係付け/多面的に考える
		・ 身近な電気製品に、電気の使用量を減らすためのどのようなくふうがあるか調べる。	量的・関係の/関係付け/多面的に考える

○「プログラミング」を体験しよう	4	○ 明かりをつけるためのプログラムを考える。	量的・関係的/関係付け/ 多面的に考える
		・ コンピュータが動作するための手順や指示をプログラムということを理解する。	量的・関係的/関係付け/ 多面的に考える
		・ 条件と動作の組み合わせを，条件シールと動作シールを使って考える。	量的・関係的/関係付け/ 多面的に考える
		・ まとめシールを使ったときの組み合わせを考える。	量的・関係的/関係付け/ 多面的に考える
○たしかめよう	1	○ 電気の利用について学んだことを生かして問題を解く。	量的・関係的/多面的に 考える

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
理科	6	啓林		188	5	3	3

大単元(題材名)	わたしたちの地球(2)		
中単元(曲名)	10. 自然とともに生きる		
主領域／領域／内容の区分	B 生命・地球		
関連する道徳の内容項目	D生命の尊さ／自然愛護／よりよく生きる 喜び		

【到達目標】

知・技	○ 生物は、環境と関わり合って生きていることがわかる。
	○ 生物が互に関わり合って生きていることと、ヒトも環境の一部であることがわかる。
	○ ヒトが環境に与えている影響についてわかる。
	○ ヒトが環境に与える影響を多面的に考え、どのように地球環境と関わっていけばよいのかを調べることができる。
	○ ヒトと環境との関わりについて、本やコンピュータなどから必要な情報を集めることができる。
思・判・表	○ ヒトと環境との関わりについて関心を持ち、進んで環境問題について調べ、自分にできることを多面的に考えることができる。
	○ ヒトがどのように地球環境と関わっていけばよいのかを多面的に考え、発表することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 生物と環境について粘り強く追究する活動を通して、ヒトの生活が環境に与える影響について知り、これから私たちが環境とよりよく関わっていくためにはどのようにすればよいかを考えてまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 生物は、水や空気を通して環境と関わり合って生きていることを理解している。	B(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 生物は、食べる・食べられるという関係でつながっていることを理解している。	B(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 生物が互に関わり合って生きていることと、ヒトも環境の一部であることを理解している。	B(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ ヒトが環境に与えている影響について理解している。	B(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ これまでに学習した内容や新たに集めた情報をもとにして、ヒトと環境とのつながりを多面的にまとめている。	B(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ ヒトが環境に与える影響を多面的に考え、どのように地球環境と関わっていけばよいのかを調べている。	B(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 本やコンピュータなどを活用して、環境問題などについての必要な情報を集めている。	B(3)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ 既習内容などをもとに、ヒトと環境との関わりについて多面的にとらえ、その関わりをわかりやすくまとめている。	B(3)イ
	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	B(3)イ
	○ ヒトがどのように地球環境と関わっていけばよいのかを多面的に考え、わかりやすく発表している。	B(3)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ ヒトと環境との関わりについて、根拠のある予想・仮説を立てて調べ、自分の考えをまとめている。	
	○ ヒトと環境との関わりについて予想したことを、友だちとの話し合いを通して見直している。	
	○ これから私たちがどのように地球環境と関わっていけばよいのかを考察し、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 生物と環境の学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
3	年 身の回りの生物
4	年 季節と生物
4	年 天気の様子(水の自然蒸発と結露)
5	年 流れる水の働きと土地の変化
6	年 電気の利用
6	年 燃焼の仕組み
6	年 人の体のつくりと働き
6	年 植物の養分と水の通り道

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
○導入	1	○ 環境との関わり合いから「自然とともに生きる」とはどのようなことなのか考える。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 教科書P.188, 189のイラストを見て, 生物と環境との関わりについて, 気づいたことを話し合う。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
1.わたしたちの生活と環境	1	○ 私たちの生活が環境とどのように関わり合っているか考える。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 空気, 水, 食べ物と, 私たちの生活との関わり合いについて, 教科書P.190, 191の写真を見て考える。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ ヒトは, 空気や水, 動物や植物などの環境と, 常に関わり合って生活していることを理解する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
2.環境へのえいきょう	2	○ 私たちの暮らしは, 環境にどのような影響を与えたり, 与えられたりしているのかを調べる。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 普段, 環境にどのような影響を与えたり与えられたりしているか, 考えて話し合う。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 空気や水, 生物などの環境にヒトが与えている影響を, 新聞やコンピュータを使って調べる。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 地球の活動による環境の変化が私たちの生活に与える影響を, 新聞やコンピュータを使って調べる。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 環境を守る取り組みを, 新聞やコンピュータを使って調べる。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ ヒトの活動は, 環境に影響を与えてきたこと, 環境の変化が私たちの生活に影響を与えることもあることを理解する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 今後もよりよい生活が続けるためには, 環境を守っていく必要があることを理解する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
3.自然とともに生きるために	1	○ 環境を守るための様々な取り組みについて理解する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 普段の生活のなかで環境を守るためにできる取り組みを考えて話し合う。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 環境への影響を少なくするための取り組みを理解する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
		・ 環境を守る取り組みを理解する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える